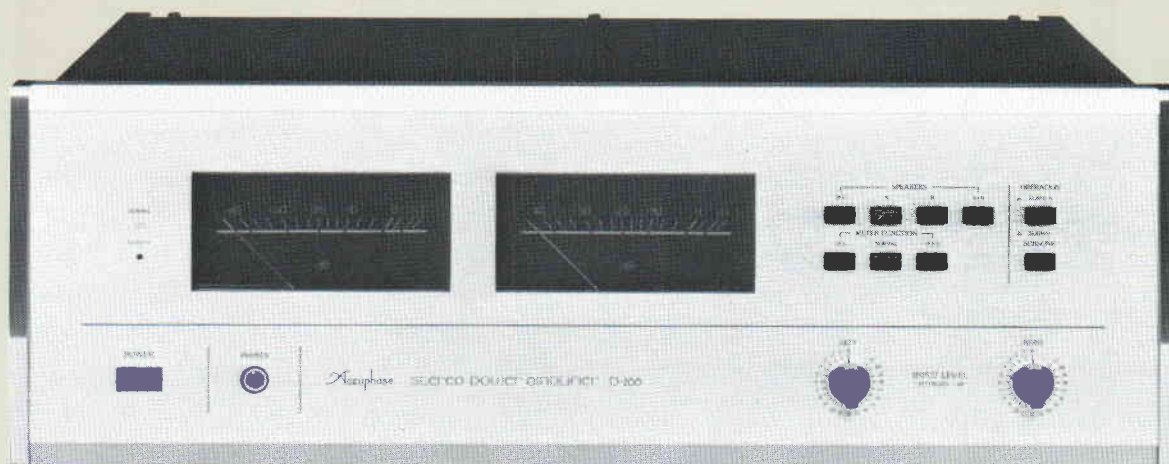


STEREO POWER AMPLIFIER

P-266

ステレオ・パワー・アンプ

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要な事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

目 次

特長	2
接続方法	3
各部の名称と動作説明	4
ブリッジ接続	8
ご注意	9
ブロック・ダイアグラム	10
保証特性	11
特性グラフ	12

特長

■MOS FETトリプル・プッシュプル駆動により2Ωの低インピーダンス駆動を実現

出力段はPチャンネル、NチャンネルのMOS FETを3個ずつ、計6個でトリプル・プッシュプルとなっています。

直結ソリッドステート・アンプは負荷インピーダンスが低くなる程、出力素子に大きな電流が流れて、ついに出力素子が破壊してしまいます。そのために一般のアンプでは保護回路により、決められた電流以上は流れないように制限することにより、低インピーダンス負荷では極端に出力が減少し、ほとんどパワーが出ないようにしてしまいます。しかし、現実のスピーカーはインピーダンスが周波数によって大きく変動し、公称4Ωのスピーカーでも周波数によっては3Ω、2Ω位までもインピーダンスが低下します。また、逆起電力のために過渡的な信号では瞬間的に、もっとインピーダンスが低下する場合があります。

このような低インピーダンスの状態になっても十分にリアリティーの良いパワーを送り込めるようにするため、P-266は2Ω負荷にも十分耐える強力な出力段と電源部を備え、あらゆるスピーカーを安定に駆動することができます。

■30W/ch(8Ω負荷)純A級動作が可能、さらにブリッジ駆動で110W(8Ω負荷)純A級モノ・アンプを実現

MOS FETはそれ自体ノッチングひずみを発生せず、A級アンプに匹敵する高域特性を得ることができますが、より完全な高域特性を実現するために、切り替えスイッチにより完全なA級動作にすることができます。A級動作方式はプッシュプル素子の動作領域が常に完全にオーバーラップする本来のA級動作です。したがってバイアス電流やB電圧を信号によって変化させる方式とは異なり、極めて安定した動作が期待できます。なお、動作状態はLED(発光ダイオード)で表示されます。

■大出力モノフォニック・アンプにグレードアップするブリッジ駆動スイッチ

ステレオ・パワー・アンプのそれぞれを一つの素子と見做し、これらをプッシュプル駆動することにより大きな出力を取り出すことができます。本機にはブリッジ接続回路が内蔵されており、スイッチ一つの操作で簡単に400W(8Ω負荷)モノフォニック・アンプに早変わりします。

ブリッジ接続スイッチとOPERATIONスイッチの操作

で①最もスタンダードな130W/ch(8Ω負荷)ステレオ・アンプ ②400W(8Ω負荷)モノフォニック・アンプ ③30W/ch(8Ω負荷)純A級ステレオ・アンプ ④110W(8Ω負荷)純A級モノフォニック・アンプの四通りの駆動方式を選ぶことができます。

■高域特性を大幅に改善したカスコード・プッシュプル・プリドライブ段

ドライブ段を駆動する前段は、大電圧と電流が要求される部分で、増幅回路の性能を左右する重要なところ。本機のプリドライブ段は、2個のトランジスターを組み合わせ、カスコード接続を構成し、電流振り込みの働きと、大振幅増幅の働きをカスコード素子のそれぞれに持たせて優れた高域特性を実現しております。

■DCサーボ直結方式

本機のように入力コンデンサーも取り去り、完全な直結構成のアンプでは、直流までも増幅してしまい、DC(直流)漏れのプリアンプと併用した場合、スピーカーを破壊してしまうこともあります。これを防止するために本機では、DCサーボアンプで直流帰還をかけ、直流を遮断するとともに、DCドリフトを安定化しました。

■1dBステップのアッテネーター

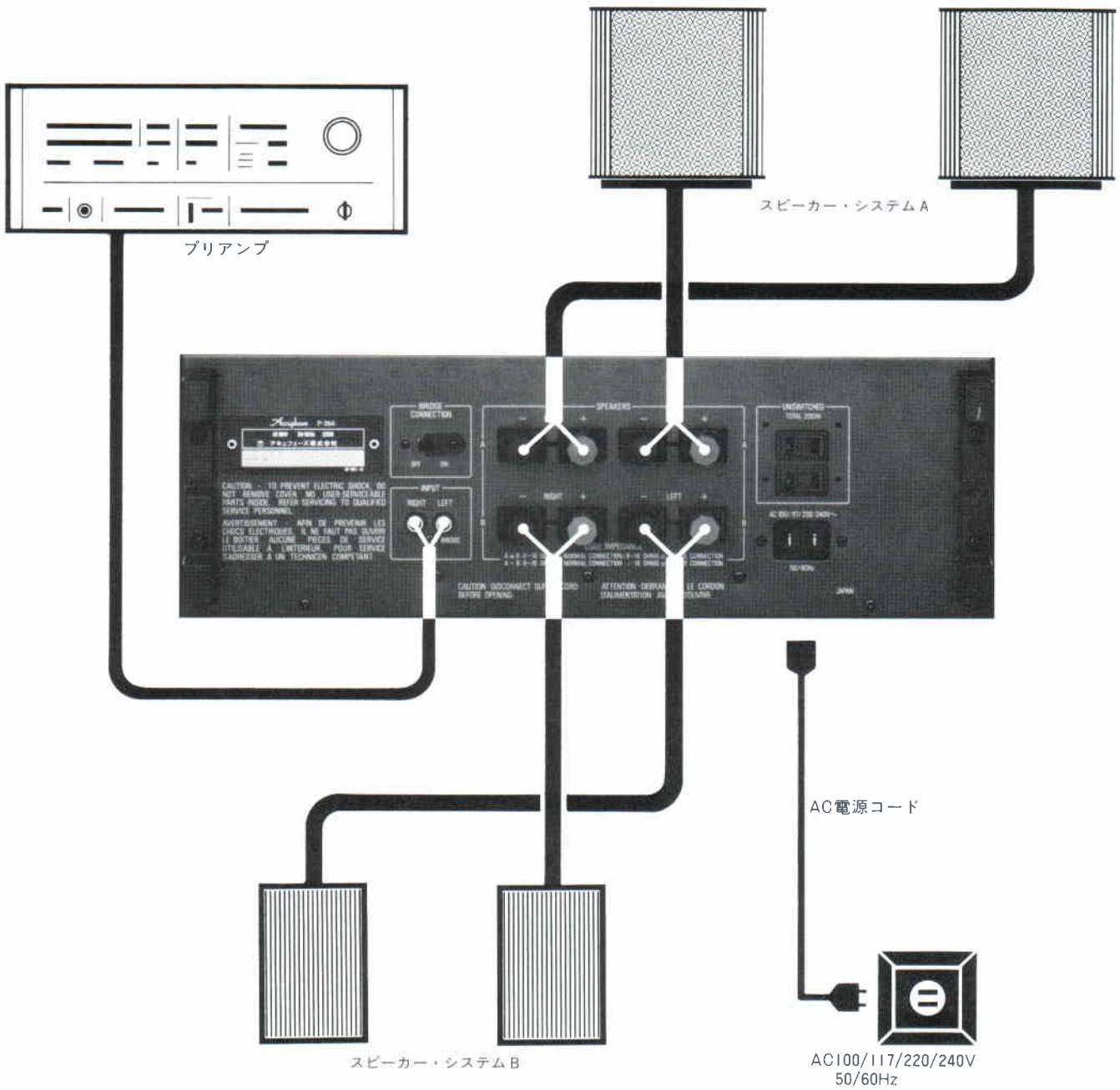
入力レベルは-20dBまで1dBステップのディテント式アッテネーターにより正確にコントロールできます。緻密なレベル・セッティングが可能で、特にマルチアンプ・システムのレベル合わせに威力を発揮します。

■ホールド機能付対数圧縮型ピークレベル・メーター

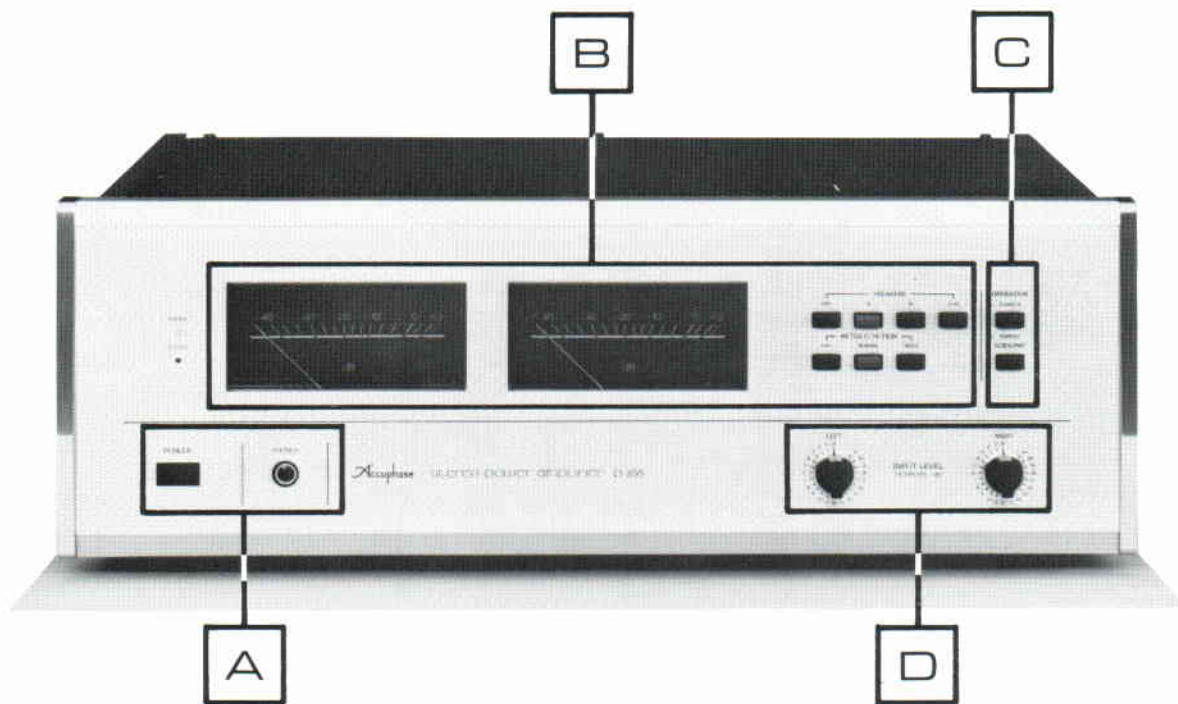
モニターに便利な出力計を装備しました。最大出力までを連続的に監視できる対数圧縮型ピークレベル・メーターで、dB目盛と共に8Ω負荷の出力を直読できます。

また切替スイッチにより「ピーク・ホールド」もでき、3秒間のサンプリング周期でその間のピーク値を保持します。

接続方法



各部の名称と動作説明



A

POWER PHONES

POWER——電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押しと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約6秒間はミュージック回路が作動していますので出力はありません。

PHONES——ヘッドホン出力ジャック

ステレオ・ヘッドホンで聴くときに、このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。インピーダンス4~32Ωのヘッドホンをご使用ください。ヘッドホン・プラグを差し込んでも本機の2系統のスピーカー端子の信号は切れませんので、ヘッドホンだけで聴くときには、**B** SPEAKERS スイッチをOFFにしてください。

また、“ブリッジ接続”にしてモノフォニック・アンプとして使用するときには、本機に入力した信号がヘッドホンの左右スピーカーに逆位相で入力されますので注意してください。

B

SPEAKERS METER FUNCTION PEAK POWER LEVEL METER

SPEAKERS——スピーカー切替スイッチ

リアパネル**G**のスピーカー端子A、Bに2組のスピーカーを接続することができ、それらを選択するためのスイッチです。

“A”及び“B”では、それぞれのポジションの1組のスピーカーを選択することができ、“A+B”では2組のスピーカーを同時に鳴らすことができます。

AとBは並列接続になっていますので“A+B”の位置で2組のスピーカーを同時に鳴らすときには、スピーカーのインピーダンスが8Ω以上のものを接続してください。

赤のプッシュ・スイッチは他のスイッチの解除ボタンですから押し込んでもそのままの位置でロックしません。

METER FUNCTIONの赤スイッチも同じで、関連するプッシュボタン・スイッチの解除と同時に、その赤スイッチに表示してある機能を果たします。

METER FUNCTION——メーター機能切替スイッチ

《OFF》このプッシュ・スイッチを押したときは、メーター回路がOFFになりますから、パワー・メーターの指針は振れません。

《NORMAL》赤色の“NORMAL”を押したときは、瞬時に変化する音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示します。このプッシュボタンは押し込んでもロックしません。

《HOLD》 パワー・メーターの表示する値を読み取りやすくするために約3秒間のサンプリング周期で、その間のピーク値を指針が保持します。ピーク値は約3秒間隔で自動的にリセットされます。

PEAK POWER LEVEL METER——ピーク指示型パワー・メーター

このパワー・メーターはピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。したがって瞬時のピーク値を読み取りやすくするために、メーター指針の立上り時間に比べて帰りの時間が遅くなっています。

さらに、瞬時のピーク値を一層読み取りやすくするために、METER FUNCTION スイッチを“HOLD”にしますと、約3秒間のサンプリング周期をもつピークホールド回路がピーク値を保持します。ピーク値は約3秒間隔で自動的にリセットされ、その間のピーク値を次々に表示して行きます。

ピーク指示型のメーターはレコードなど、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多くふくまれているものでは聴感上の音量感と多少違った感覚を受けることがあります。

メーター・スケールは出力レベルをdBで表示するとともに、8Ω負荷時のワット数をNORMAL動作、A級動作時ともに直読できるようになっています。したがって8Ω負荷でCのOPERATIONスイッチが“NORMAL”（通常の動作状態）のときは、正弦波を加えて0dB=130W、-10dB=13W、-20dB=1.3Wとなります。4Ω負荷でNORMAL OPERATIONのときは、0dB=260W、-10dB=26Wと直読目盛の2倍の値、16Ω負荷のときは直読目盛の½倍の値が出力パワーとなります。

OPERATIONスイッチをCLASS-A（A級動作）にしたときは、8Ω負荷のとき、0dB=30W、-10dB=3Wとなり、4Ω負荷時は8Ω負荷時の2倍、16Ω負荷のときは½倍の値が出力パワーとなります。また指針の振れはA級動作にしますと、大きくなります。

ブリッジ接続で使用しているときは、両方のメーターが同一の指示をします。スピーカーに供給されるエネルギーはメーターの指示値の6dBアップ（パワーは4倍）になります。直読目盛の4倍の値が実際の出力です。この値はスピーカーのインピーダンスが8Ωの場合で、16Ωの場合は

メーターの指示値の3dBアップ、直読目盛の2倍になります。以上の出力は正弦波を入力したときのもので、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、左右のメーターの指針は同一の指示値を示しません。



OPERATION SUBSONIC

OPERATION——オペレーション切替スイッチ

このプッシュ・スイッチを押して“CLASS-A”にしますと、アンプ回路の動作方式がA級動作になります。

A級動作にしますと8Ω負荷時の最大出力が30Wと小さくなり、メーターの左側にあるLED（発光ダイオード）の表示も切り替わります。

■パワー・アンプの出力とスピーカーの能率について

本機は回路の動作基準を切り替えることにより、最大出力が130W（8Ω負荷）から30W（8Ω負荷）になりますが、アンプのゲインが変わりませんので音量も変わりません。

スピーカー・システムの能率が92dB/W/m以上の特性をもつ大型フロアー・タイプのシステムなどでは、通常のリスニング・レベルにおけるアンプの出力は10W位のものですから、瞬間的に入るピーク信号も30Wの出力があれば十分です。また、音量を大きくした場合でも、大体3dBのクリッピングはひずみを感じませんので、A級動作でも実質60W出力のアンプのピーク時に相当する音量感を出すことができます。

しかし能率の低いスピーカーでは、音量を大きくするほどに瞬発するピーク信号にクリッピングを生ずるようになります。ひずみの多い再生音になりますので、このような場合は動作をNORMALにしてお使いください。

SUBSONIC——サブソニック・フィルター

このスイッチは押したときに“ON”となり、再び押すと手前に出てOFFです。

サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域17Hz以下を12dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズの可聴帯域内への悪影響を取り除くことができます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。



INPUT LEVEL

INPUT LEVEL——入力レベル調整

本機へ入力する信号のレベルを調整するつまみです。いかえると、LEFT(左)チャンネル、RIGHT(右)チャンネルの出力レベルを調整するもので、右まわして出力が増大します。最大“0”から左へまわして“20”の位置(−20dB減衰)まで1dBステップになっています。通常は最大“0”でご使用ください。マルチアンプ・システムにこのアンプをご使用のときなどのレベル調整に有効です。

ブリッジ接続にしたときには、LEFT(左)チャンネル側のつまみでレベル調整をしてください。RIGHT(右)チャンネル側のつまみは無関係になります。

ブリッジ接続に切り替えますと、アンプのゲインが6dB増加します。したがってマルチアンプ・システムの中にP-266をブリッジ接続にして組み入れるときは、通常のステレオ・アンプとして使っていたときより6dBだけレベルを下げないと、それ以前のバランスになりませんのでご注意ください。



INPUT

INPUT——入力端子

コントロール・センター(プリアンプ)の出力端子とこの端子をシールド・コードで接続してください。定格出力1V以上のコントロール・センターをご使用ください。出力電圧が低いとゲイン不足になることがあります。

□のブリッジ接続回路ON/OFFスイッチをONにして“ブリッジ接続回路”に切り替えたときには“LEFT”側入力端子から本機へ入力してください。



BRIDGE CONNECTION

BRIDGE CONNECTION——ブリッジ接続回路ON/OFF スイッチ

本機をNORMAL動作時400W(8Ω負荷)出力のモノフォニック・ハイパワー・アンプに切り替えるためのスイッチです。

切り替えるには、スライド・スイッチのストッパーを固定しているビスを外して、スイッチを“ON”にしてください。これでモノフォニック・アンプになります。“ブリッジ接続”について8ページに詳細な説明をしております。



SPEAKERS

SPEAKERS——スピーカー端子

本機を通常のステレオ・アンプとしてご使用になるときは、リアパネル“A”、“B”端子に2組のスピーカーを接続することができます。それぞれの端子へ接続したスピーカーはフロントパネル□SPEAKERSスイッチで選択します。スピーカー切替スイッチを“A+B”の位置にして2組のスピーカーを同時に鳴らすとき、また、ブリッジ接続にしてモノフォニック・アンプにしたときなどは、次のように、接続可能なスピーカーのインピーダンス(アンプの負荷インピーダンス)が変わりますのでご注意ください。

《通常のステレオ・アンプとして使用するとき》

■“A”または“B”を単独で使用

負荷インピーダンス：4~16Ω

■“A+B”で同時に2組のスピーカーを使用

負荷インピーダンス：8~16Ω

《ブリッジ接続にして使用するとき》

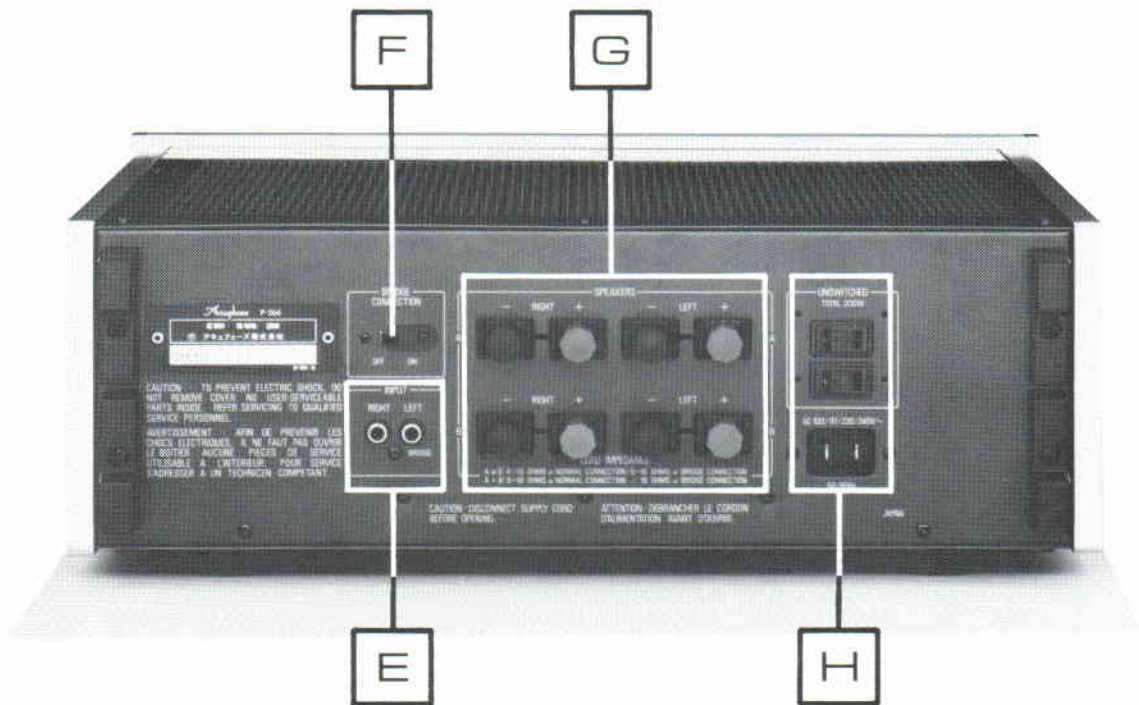
■“A”または“B”を単独で使用

負荷インピーダンス：8~16Ω

■“A+B”で同時に2台のスピーカーを使用

負荷インピーダンス：16Ω

また、ブリッジ接続にしたときには、LEFT(+)がプラス端子、RIGHT(+)がマイナス端子としてスピーカーに接続し、(-)側には何もつながないようにしてください。“ブリッジ接続”について8ページに詳細な説明をしております。



UNSWITCHED AC電源コード受口

UNSWITCHED——POWERスイッチに連動しないコンセント

本機の電源コードがACコンセントに接続されている場合、POWERスイッチのON/OFFに関係なく、他の機器への電源供給ができます。消費電力が200Wを越えないように注意してください。

AC電源コード受口

ACコンセントの下は本機へ供給するAC電源のコード受口です。付属している電源コードを差し込んでください。

“AC電源の極性について”

室内のコンセントは大地に対して極性を持っております。アンプのACプラグにもこのような極性があり、室内のACコンセントとアンプの極性を合わせた方が音質上、良い結果が得られる場合があります。

P-266はAC電源コード受口に向って左側が接地側「W極」になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、

この極性は合わせなくても実用上まったく問題はありません。

室内コンセントの極性は一般に向って左側（穴が右に比べて大きい）が「W極」ですが、工事をした時期、工事会社によって守られていない場合も多いので、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。

本機のUNSWITCHEDコンセントも向って左側が“W極”になっています。

“AC電源電圧の変更とヒューズについて”

P-266は使用できる電源電圧を100V, 117V, 220Vそれに240Vの4段階に切り替えられます。P-266の底板を外して、電源トランスの底部のジャンクション・ターミナルのところで接続変更をする必要があります。また、電源一次側のヒューズもジャンクション・ターミナルの横についていますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますようお願いいたします。

ブリッジ接続

“BRIDGE CONNECTION”のスライド・スイッチをON
OFFするときは、必ず電源スイッチを切ってください。

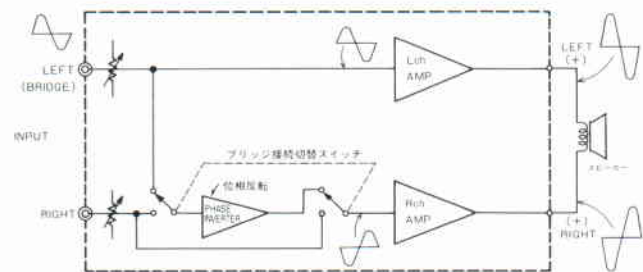
同じ2台のパワー・アンプの入力に同一信号を入れて、出力側のマイナス(-)極同士を接続し、それぞれのプラス(+)極から信号を取り出します。このままの状態では、出力はゼロになってしまいます。そこで入力側で1台のアンプへ入力する信号の位相を反転し、もう1台のアンプへはそのままの信号を入れますと、2台のアンプへは逆位相の信号が入ったことになり、出力にもそのまま逆位相の信号が現われます。その結果、1台のときの2倍の信号電圧が負荷(スピーカー)に加えられることとなります。このように電圧が2倍になりますと電力は4倍、つまり4倍のパワーが得られることとなります。

しかし、現実のアンプでは、回路内の損失や、出力トランジスタの電流容量の制限を受けますので、1台で使用するときの4Ω負荷で出し得る2倍がブリッジ接続をしたときの8Ω負荷の出力となります。

このように2台のパワー・アンプを1台のアンプとして接続することを“ブリッジ接続”と称し、信号の位相処理をする回路が“ブリッジ接続回路”です。ブリッジ接続回路が内蔵されていないアンプでは、この回路のアダプターが必要になります。

■P-266のブリッジ接続について

本機はステレオ・パワー・アンプですから2台のパワー・アンプがすでに入っております。したがって、下図のように内蔵されているブリッジ接続回路のスイッチを切り替えるだけで動作し、400W(8Ω負荷)のハイパワー・モノフォニック・アンプになります。



〈ブリッジ接続に切り替えたとき〉

■負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になる

アンプ1台に対する負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。インピーダンス8Ωのスピーカーを接続したときには、1台あたり4Ωのスピーカーが接続されたときと同じこととなります。

P-266をブリッジ接続にしたときには、8Ω以上のイ

ンピーダンスのスピーカーをご使用ください。また、スピーカー切替スイッチを“A+B”にして2台のスピーカーを同時に鳴らすときには、“A+B”ポジションが並列接続になっているために、16Ωよりも低いインピーダンスではアンプにとって過負荷になります。

■増幅度は2倍になりS/Nが減少

スピーカーに加わる電圧は2倍になります。言いかえると、増幅度が2倍になったことと同じで、デシベルで表現しますと6dBアップになります。このためにトータル・ノイズが上昇し、S/Nは減少します。

■ダンピング・ファクターは半分になる

2台のアンプの出力回路が直列に接続されることになり、アンプの出力インピーダンスが2倍になりますので、ダンピング・ファクターは半分になります。しかし、もともとソリッドステート・アンプのダンピング・ファクターは高いので実用上はまったく支障ありません。

〈接続方法〉

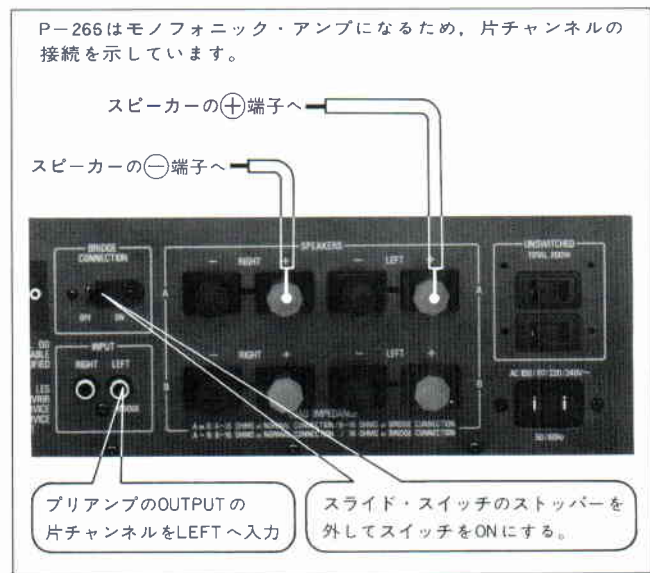
“BRIDGE CONNECTION”のスライド・スイッチを“ON”にしてください。

■入力信号はINPUT端子の“LEFT”へ入れてください。

■SPEAKERS端子のLEFT(+)とスピーカーのプラス(+), RIGHT(+)とスピーカーのマイナス(-)端子を接続してください。

■SPEAKERS端子の(-)側には何もつながないようにしてください。

ブリッジ接続にしたときのパワーレベル・メーターの指示については5ページに詳細な説明があります。



P-266はモノフォニック・アンプになるため、片チャンネルの接続を示しています。

スピーカーの⊕端子へ

スピーカーの⊖端子へ

リアンプのOUTPUTの片チャンネルをLEFTへ入力

スライド・スイッチのストッパを外してスイッチをONにする。

ご注意

■パワー・アンプの空気孔はふさがないようにしてください

ハイパワー・アンプはかなりの熱が出ます。特にA級動作をさせているときには、回路内を大電流が常時流れますので、本機の温度上昇も相当なものになりますので、アンプのまわりの空気孔の近くに空気の流通をさまたげるようなものを置いたり、狭い通気の悪い場所へセッティングすることは絶対にさけてください。また、直射日光のあたる場所でのご使用はさけてください。

別売のローズウッド・キャビネットA-8型に入れたときのクーリングについては十分に検討されておりますので、まったく支障はありません。

■本機の上とか下に直接プリアンプやパワー・アンプを重ねて使用することはさけてください

冷却効果をさまたげるとともに、高利得のプリアンプのときには電磁誘導を受けてハムを発生したり、チューナーでは不安定な動作の原因になることがあります。

■電源はプリアンプのVOLUMEを下げてから切ってください

電源を切るときには必ずプリアンプのVOLUMEをさげてから切ることを習慣づけましょう。

パワー・アンプに信号を通したままの状態では電源をOFFにすると、プロテクション回路のリレー接点をいため、接触不良の原因になります。アキュフェーズ製品のパワー・アンプに使用しておりますリレーは、電流容量も大きく厳選したのですが、VOLUMEを下げることにより、リレー接点の状態を常にベスト・コンディションに保てるわけです。パワー・アンプのレベル調整ツマミをその都度下げる必要はありません。

■レコード・プレーヤーなどを操作するときは、必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから行なってください

ハイパワー・アンプを使用して、カートリッジをレコード盤面から上げたり、下げたりするとき、聴感上それほどの音圧を感じなくても、スピーカーには超低域の大電流が流れて、スピーカーを破損する場合があります。

必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから操作してください。

■入出力コードを抜差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください

特にRCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）をジャックから抜差しするときは、（+）側、（-）側ともに同時に入ったり切れたりせず、（+）側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬（-）側が浮いた状態となって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

プリアンプ、パワー・アンプの入出力コードを抜差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行なってください。

■OPERATION切替スイッチについて

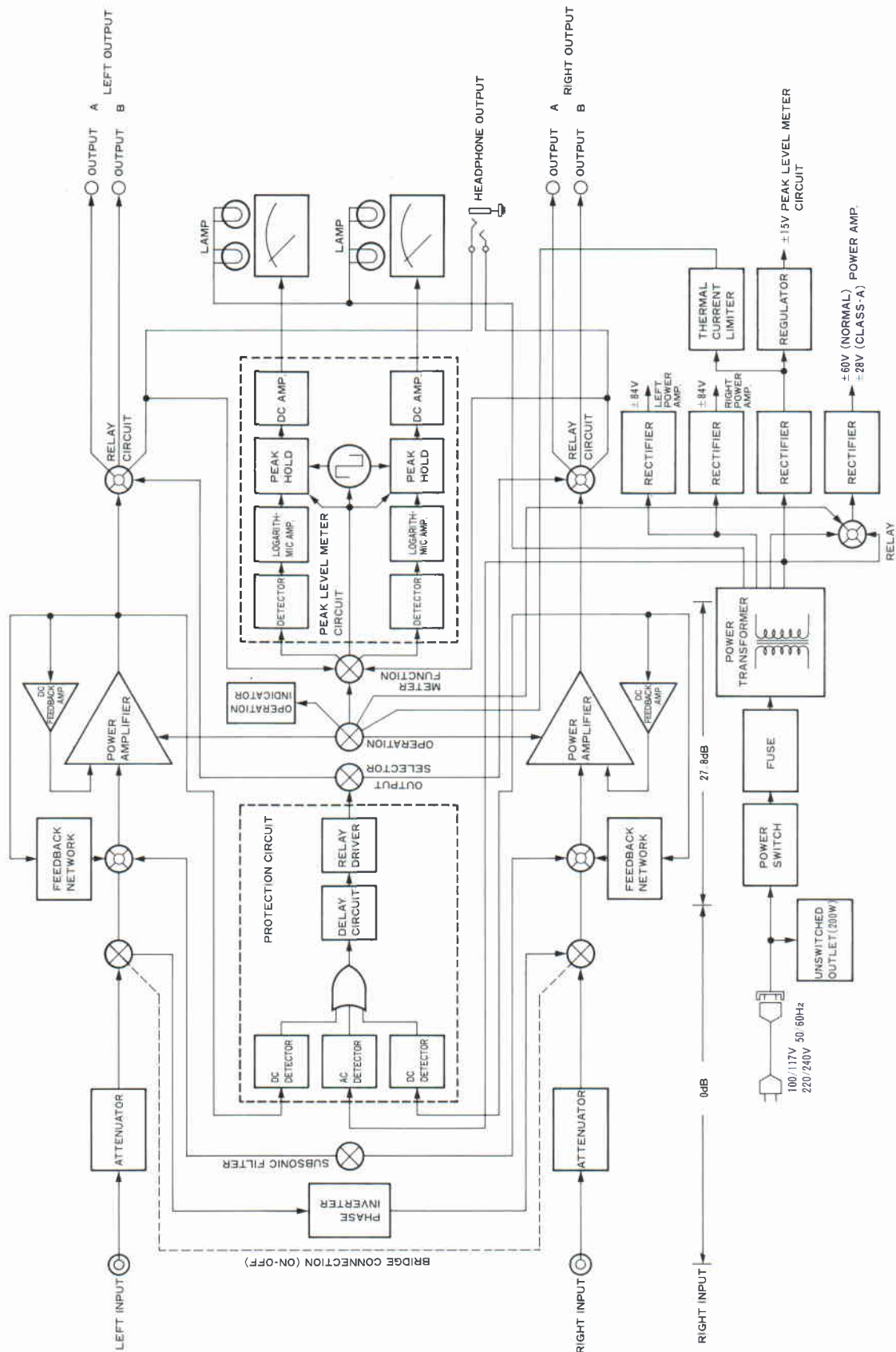
オペレーション切替スイッチを“CLASS-A”から“NORMAL”に切り替えたときには、電源回路から供給するエネルギーが急に増大するために、一瞬パワー・メーターの照明ランプが暗くなりますが、これは故障ではありません。

■2台以上のアンプ、スピーカーを切り替えて使用するとき

切替スイッチを使って、2台以上のアンプ、スピーカーなどを切り替えてご使用になる場合は、切替スイッチ内でアース側が共通になっていますとアンプの異常発振を誘発する原因になります。切替スイッチのアース側が共通になっていないことを確認の上でご使用ください。

ブリッジ接続にした場合は、スピーカーの両極は、アンプのマイナス側（シャーシー）に対して常に電位をもっています。このためスピーカーまでの信号ケーブルは両極共に独立した状態でないと、過電流が流れます。したがってスピーカー切替スイッチを使用するときは、両極共に完全に独立して切り替わるタイプのもをご使用ください。共通接続になったスイッチでは過電流が流れ、アンプを破損することがあります。

ブロック・ダイアグラム



保証特性

連続平均出力

ステレオ仕様時（両チャンネル同時動作）

NORMAL OPERATION

200W/ch	4Ω 負荷
130W/ch	8Ω 負荷
65W/ch	16Ω 負荷

CLASS-A OPERATION

55W/ch	4Ω 負荷
30W/ch	8Ω 負荷
18W/ch	16Ω 負荷

モノフォニック仕様時（ブリッジ接続）

NORMAL OPERATION

400W	8Ω 負荷
180W	16Ω 負荷

CLASS-A OPERATION

110W	8Ω 負荷
55W	16Ω 負荷

いずれも20-20,000Hz間、全高調波ひずみ率0.01%

全高調波ひずみ率

ステレオ仕様時（両チャンネル同時動作）

NORMAL 及び CLASS-A OPERATION

0.01%	4Ω 負荷
0.005%	8-16Ω 負荷

モノフォニック仕様時（ブリッジ接続）

NORMAL 及び CLASS-A OPERATION

0.01%	8Ω 負荷
0.005%	16Ω 負荷

いずれも0.25W～連続平均出力間、20-20,000Hz間

IMひずみ率 (IHF)

0.003%

周波数特性

20 ~ 20,000Hz	+0, -0.2dB	(連続平均出力時, レベルコントロールMAX)
0.5~300,000Hz	+0, -3.0dB	(出力1W時, レベルコントロールMAX)
0.5~150,000Hz	+0, -3.0dB	(出力1W時, レベルコントロール-6dB)

ゲイン

27.8dB	ステレオ仕様時
33.8dB	モノフォニック仕様時（ブリッジ接続）

負荷インピーダンス

2-16Ω	ステレオ仕様時
4-16Ω	モノフォニック仕様時（ブリッジ接続）

ダンピング・ファクター (IHF 50Hz)

120	ステレオ仕様時
60	モノフォニック仕様時（ブリッジ接続）

入力感度(8Ω負荷)・入力インピーダンス

ステレオ仕様時

1.3V	20kΩ	連続平均出力時
0.12V	20kΩ	1W出力時 (IHF)

モノフォニック仕様時（ブリッジ接続）

1.1V	20kΩ	連続平均出力時
0.06V	20kΩ	1W出力時 (IHF)

S/N (A補正)

ステレオ仕様時

120dB	入力ショート	連続平均出力時
100dB	入力1kΩ	1W出力時 (IHF)

モノフォニック仕様時（ブリッジ接続）

110dB	入力ショート	連続平均出力時
90dB	入力1kΩ	1W出力時 (IHF)

ステレオ・ヘッドホン

低出力インピーダンス型

サブソニック・フィルター

17Hz -12dB/oct

出力メーター

対数圧縮型 -40dB～+3dB及び出力直読目盛
ピークホールド切替付

使用半導体

34Tr, 18FET, 7IC, 68Di, 2オプト・カプラー

電源・消費電力

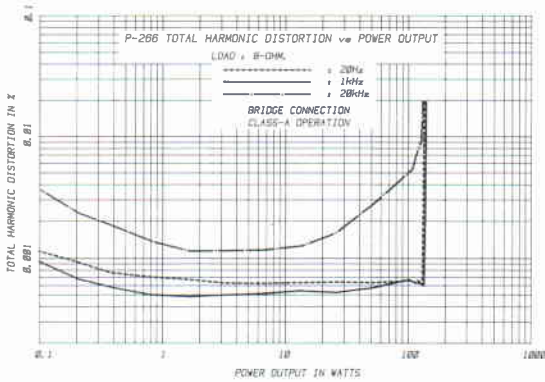
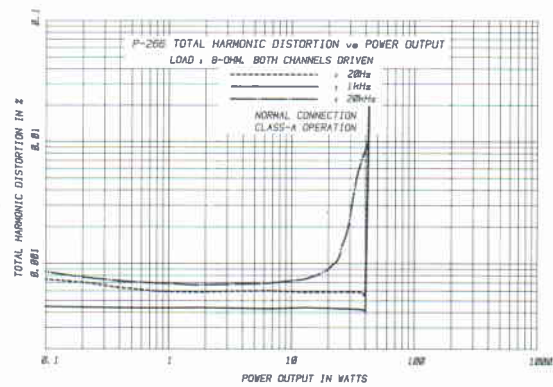
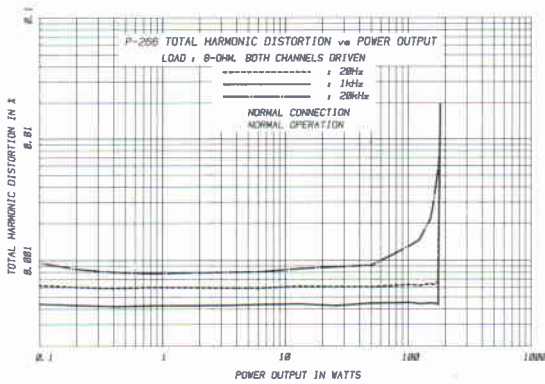
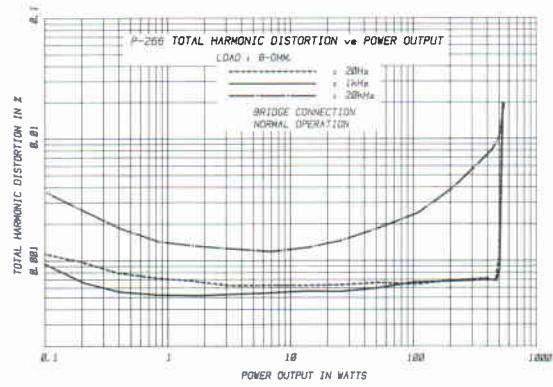
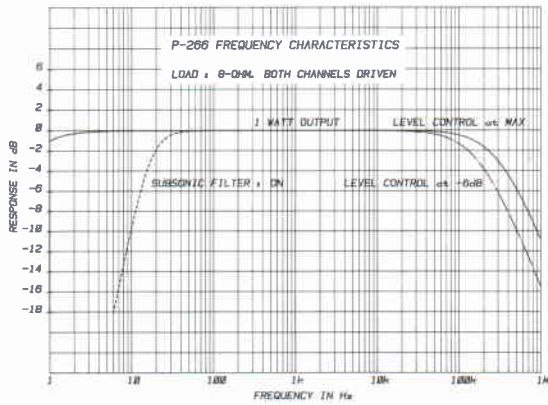
100V, 117V, 220V, 240V, 50/60Hz

NORMAL OPERATION	120W	無入力時
	500W	8Ω 負荷定格出力時
CLASS-A OPERATION	150W	無入力時
	190W	8Ω 負荷定格出力時

寸法・重量

幅445mm×高さ160mm(脚含む)×奥行373mm
20kg

特性グラフ





ACCUPHASE LABORATORY INC.
アキュフェーズ株式会社
横浜市緑区新石川2-14-10
〒227 TEL(045)901-2771(代表)